九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

農作業体験活動を取り入れた公園緑地の計画と運営に関する研究

徳永，哲

https://doi.org/10.15017/1654895

出版情報：九州大学，2015，博士（芸術工学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名　：徳永　哲

論 文 名　：農作業体験活動を取り入れた公園緑地の計画と運営に関する研究

区　　分　：甲

論　文　内　容　の　要　旨

都市近郊地域の農地は，農作業等の体験活動を通して身近な自然とのふれあいの場として活用される例が増えている。これらの場では都市住民を主体とする参加者が，農作物の栽培や農地管理などを「楽しむ」ことを前提に，協働して農作業を体験する活動（以下，農作業体験活動）が展開されるようになってきている。都市近郊地域では，農地のほとんどは市街化調整区域に位置している。このような地域では，複数の自然的土地利用が相互に関係し合う里山環境が残存する一方で、過疎や農業の衰退といった地域社会の課題に直面している。こうした地域に配置された公園緑地では，その環境条件を活かして，レクリエーション・生涯学習・環境教育・交流などの機会を提供する役割が期待されているものの，これらを十分に果たせているとは言い難い。

本研究は，このような問題意識を踏まえ，福岡市かなたけの里公園を調査対象地としてとりあげ，次の二点を研究目的とした。第一に農作業体験活動を取り入れた公園緑地の持つ意味や適地選定、形成過程について分析し，農作業体験活動の支援に資する公園緑地計画上の条件と課題をわかりやすい形で整理し提示することである。第二に都市近郊地域において開設された公園緑地における農作業体験活動の運営内容と仕組みについて分析し，地域活性化に貢献しうる公園緑地運営の展開方策を探ることである。本研究における検討及び考察は，６つの章からなっている。

第１章「研究の背景と目的」では，既往研究や文献等を参照し，農作業体験活動を取巻く現況と課題の認識を行った上で、研究の目的、研究の視点と構成を示した。

第2 章「農作業体験活動を取り入れた公園緑地に関する視点の整理」では，予備調査として農作業体験活動にまつわる一般的な動向ならびに都市公園の整備運営を巡る社会的要請の変化について基礎文献を用いて整理した。これらを踏まえて、福岡市「かなたけの里公園」の構想、計画設計、運営に至るまでを，筆者が一貫して環境設計の実務の立場から主導してきたことから、アクションリサーチとして検討を進めることにより本研究の目的を果たすとともに，本研究で得られた結果を我が国の公園緑地の新たな展開に役立てる可能性を探ることが可能と考えた。

第３章「農作業体験活動に適した公園緑地の計画条件」では，地域住民、参加者の双方の視点から，市街化調整区域内での市民による良好な農作業体験活動に適した公園緑地の計画に求められる条件を明らかにした。福岡市において市街化調整区域が大半を占め、農業就業者数の割合が市街化調整区域内に位置する全ての小学校区の平均より高く，人口が増加しているとともに農作業体験活動が既に展開していた金武小学校区（以下、金武地区）を取り上げた。地域住民および農作業体験活動の参加者に対してアンケート調査を実施した。その結果の分析により，地域住民、参加者の双方からみた農作業体験活動を支援するための計画条件を確認した。その結果，①農作業体験活動の農地だけでなく周辺の田畑の広がりや山々などの里山環境が豊かに存在すること，②参加者同士や参加者と地域住民との交流の場所が確保されていること，③農作業体験活動に関する学習機会の確

保や情報提供を行うこと，④緑を認識する可能性が高い公園や街路に近い農地を対象とすること，⑤農地の管理が比較的容易で継続的に参加できる可能性が高い狭い農地を対象地とすること，などが重要であることが確認できた。さらに,農作業体験活動を支援する公園緑地の計画においては,活動に適切な農地の区画の検討，交流場所の確保，適切な情報提供等が施されていることが重要な条件であることが分かった。また，多面的機能を有する里山環境の中に位置する活動場所と，地域住民・参加者の双方との交流を伴う活動運営とが，農作業体験活動を通じて関連付けられることの重要性を検討課題として抽出できた。

第４章「農作業体験活動を取り入れた公園緑地の計画過程」では，福岡市西区金武地区において「かなたけの里公園」の整備・開設に至るまでの諸検討および公園予定地における試行的農作業体験活動の取り組みの過程をみながら、農作業体験活動を取り入れた公園緑地の形成過程や地域住民の合意形成過程、行政による意思決定過程の特徴を考察した。考察の結果，地域住民とのまちづくりワークショップや公園予定地環境管理における共働作業を通じて，地域住民がその環境を誇りに思うとともに地域活性化へ向けて保全活用したい意向を共有し行政に対して明確に示したことが，「かなたけの里公園」の設置に至る事業化への大きなきっかけとなったことを指摘した。

第５章「かなたけの里公園における運営の成果に関する考察」では, 2012 年に供用開始された「かなたけの里公園」が、農作業体験活動運営の展開について活動効率の指標を用いて経過を整理し、指定管理者と地域住民との共働体制のもとに運営される公園緑地として果たした成果について分析した。これらの結果から，体験プログラムの企画意図に対する理解のしやすさが，農作業体験活動運営の創意工夫に対しての成果が得られる喜びとして，参加者・地域住民・運営管理者の三者と共有できるものとなり，さらに体験プログラムを発展させたいと考える動機づけとなっているとの見解を示した。

第６章では，本研究の結論として得られた研究成果を要約した。まず，都市近郊地域における農作業体験活動を取り入れた公園緑地創出の意義と計画条件について明らかにした。次に,農作業体験活動運営の基礎条件となる活動効率に着目し，その改善を目指した工夫において地域住民が関与する仕組みの重要性を指摘した。

以上の検討から，農作業体験活動を取り入れた公園緑地は，農家を含む地域住民と運営管理者との共働の取り組みによって，活動支援体制の構築と緑地環境管理の両立した自主的な運営能力が高まり，公園緑地から周辺地域へとマネジメント展開が広がる可能性を示すものであるとの知見を得た。